

# 2018年度 年次報告

第26期 2018年4月1日から2019年3月31日

## 2018年度総括および2019年度展望について

代表理事 中田豊一

2018年度は、本格的な実施が予定されていたイランでのプロジェクトが年度途中で中止になったことによる影響を大きく受けた一年でした。何よりも、年間を通じてそのために確保していた主要スタッフのスケジュールが空白となり、それに伴って、2千万円を超える収入が見込めなくなりました。そこで、8月には予算の大幅な見直しを行うとともに、組織を維持していくための最低限の収入を確保すべく、活動計画を立て直しました。当初はかなり無理があると考えられたのですが、国内外で積極的に働きかけた結果、補正予算を何とか達成することができました。これは、何よりも、会員、支持者の皆さんが各方面へ精力的に繋いで下さったおかげと心から感謝しています。

ピンチをチャンスに、とはよく言われることですが、本年度はまさにそのような年となりました。活動の軸を海外から国内に移行するという方針をさらに推し進めざるを得ず、その結果、国内でのネットワークと知見を拡大していく契機が大きく増えたわけです。例えば、青森で地域医療に従事する方々、鳥取県倉吉市の社会福祉協議会関係者、昨年引き続き西宮で助け合いの場づくりの活動をする市民団体a little（ア・リトル）など、単発の講座や研修ではなく、地域に根差して活動しているグループへの継続的な協力を実施することができました。これを通じて、日本国内での社会課題に対して当会のメタファシリテーション手法を活かすための機会が飛躍的に増大しました。そのことは、海外での活動についても同じでした。つまり、従来のような単発の研修ではなく、（公財）日本国際協力財団や（公財）日本障害者リハビリテーション協会への継続的な協力により、メタファシリテーションの本来の力を発揮する機会を増やすことができたわけです。

他方、2年目を迎えたセネガルでのプロジェクトは、計画通りに着実な展開を見せています。半乾燥地の厳しい条件の中、研修を受けた農民たちがそれぞれの土地で実践に励むことで、成果が見え始めた一年でした。これからは、その人たちを軸に、いかに周辺に広げていくかが課題となってきます。

2019年度は、上記の流れをさらに加速させることとなります。自主事業の柱であるメタファシリテーション講座でも、単発の基礎講座をたくさん開催するよりも、参加者と気長にお付き合いしながら、手法をしっかりと身につけていけるような組み立てをさらに充実させていきます。

実践して成果を挙げられる人材が育たなければ、いくら優れた手法であっても社会的な価値はありません。その意味では、この手法に関心を持つすべての方に、当会の活動は完全に開かれていると言っても過言ではありません。皆さまのさらなるご参加を心からお待ちしています。



中田豊一

## セネガル 農業

# 地域資源の循環による、 農村コミュニティ生計向上プロジェクト

土、水、自然の循環の仕組みやコストを理解し、計画的・効率的に作物を育てる農業へ

### 2018年度の活動

#### モデル農家養成研修

青年農家50人に対し、「農業経営に必要な4要素＝土・水・時間・空間」をテーマにした研修を実施。例えば、栽培面積に応じた収量の予測(空間のマネジメント)の重要性と計算方法を学びました。実際に計算をしてみると、収量が多くても、収穫までのコストがかかっており、収支は赤字に近かったことが明らかになった参加者もいました。

#### ファーマーズ・スクールの整備

他方、ファーマーズ・スクールでは、有機農業の実践を始めました。また、家畜の導入、灌漑設備の補強などファーマーズ・スクールの整備を進めました。今後は「地域資源を活用した農業モデルを実践・普及する場」と位置づけ、研修等で活用する予定です。

#### モニタリング

事業パートナーであるIntermondesスタッフとともに、モデル農家養成研修参加者の村を定期的に訪問し、研修の理解度や実践状況を確認しました。研修を理解し、実践に移している村人が確認できたため、彼らを中心に、指導員を養成していく予定です。



### 2019年度の活動計画

2018年度までに実施した研修を土台として、学んだことや実践を自分の言葉で伝えていく指導員を育成する予定です。

これまでに研修で学んできた、土と水の保全という観点を大切にしながら、指導員たちが地域の実情を考慮した村人たちとの関わり方ができることをめざします。特に2018年度は降水量が少なく、乾季の栽培を断念した研修生もいましたが、そういった研修生に対して、農民たちのつながりを通して農業の知恵や工夫を共有したり、栽培以外の活動の可能性の気づきをもたらしたりする機会作りを行います。農民同士の関わりや、やり取りの中で指導員自身も気づくこと、それぞれの持っている経験や知識が強化されることを期待しています。

### プロジェクトについて

**どこで** セネガル共和国ティエス州ンブル県ンゲニエヌ行政村

**だれと** 16～24歳までを中心とした青年300人

(JICA「草の根技術協力事業パートナー型」)

地域資源の循環による農村コミュニティ生計向上プロジェクト～農村青年層のための「ファーマーズ・スクール」)

**活動パートナー** Intermondes(アンテルモンド) ※セネガルのNGO

**なにを** セネガル農村部に住む主に若年層の農業従事者が、自分たちの地域において、自然資源を活用しながら農業で生計を立てられることを目標とした事業。水や土を守りながら農業の効率性を上げる知恵を共有し、実践を定着・普及させていくために、研修や農業実践の場の提供(ファーマーズ・スクール)を通して、農民たちの活動を支援します。

## 西宮 子育て

# 西宮でひろげる、 地域で助け合う子育ての輪

家族と、友人と、ご近所と、行政と、サポート団体と・・・  
半径1.5キロの多様なつながりで、子育てをもっと楽しく



※調査報告書がダウンロードできます。  
右のQRコード  
もしくはムラのミライウェブサイト  
(<http://muranomirai.org/kosodate2018>)  
から。



### 2018年度の活動

#### 「西宮で迎える産前・産後」調査

104名へのアンケート(うち、59名には個別インタビュー)を実施。産前・産後の女性たちが地域で孤立している現状や、さまざまな子育て支援制度を活かせていない現実が明らかになりました。一方で、子育ての相談や、サポートをお願いした人は半径1.5キロでつながっている人が多いこともわかりました。調査結果は2019年度の活動計画に活かしていきます。

#### 子育ての当事者／サポーターを対象とした講座

西宮市で産前・産後を迎える方、特に夫婦を対象としたパートナーシップ講座を3回、子育てをサポートしたい人を対象とした地域子育てサポーター養成講座を8回実施しました。

### 2019年度の活動計画

2018年度活動を通じて、助け合う子育ての仕組みづくりの課題として次の4点が浮かび上がりました。

- ①地域でのつながりがほとんどない産前の女性とそのパートナーへの積極的なアプローチ
- ②産前・産後の夫婦とその支援者の両方に必要な、産後の家事・子育て支援リソースに関する知識と活用方法を学ぶ場
- ③産前・産後の方が利用しやすいサポートや仕組み
- ④①から③を担う人材育成

2019年度は、まずは産前・産後の夫婦が「助けられた」という経験を積み重ねることができるよう、産前と産後の夫婦やその支援者を対象とした講座を実施します。ムラのミライは、コミュニケーション講座の講師以外に、事業全体の実施、モニター、評価、フィードバック、次の事業計画という一連のサイクルをa littleを中心に子育て中の当事者たちが担うことができるよう伴走支援をおこないます。

### プロジェクトについて

どこで 兵庫県西宮市

だれと 産前産後の女性(パートナーも含む)とその支援者

(ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ「2018年度助成プログラム」)

西宮で広げる、地域で助け合う子育ての輪プロジェクト)

活動のパートナー a little(ア・リトル) ※西宮市のNPO

なにを 女性の自立を支援するグループa littleと一緒に、子育て中の人たちが中心となり、助け助けられる社会の実現をめざします。西宮市で産前・産後を迎える女性(そのパートナーも含む)と、彼女(彼)たちへの支援を希望する人たちを対象に、調査や講座を3年間かけて実施し、地域で助け合う子育ての仕組みづくりをおこないます。ムラのミライは、a littleを中心に子育て中の人たちがその力を最大限活かせるよう、持っている力を引き出しながら、メタファシリテーション手法を用いて支援します。



## ネパール ごみ

# 環境教育と地域住民主体の環境保全活動を通じた地域コミュニティの強化

ゴミの問題に向き合うために、自分の生活の“事実”を一つずつ確かめていく

### 2018年度の活動

2018年度は、ゴカルネシヨール市にあるアルバリ地域でゴミ回収の仕組みをつくり、実行しようとする女性グループの活動をサポートしました。一つの集落では、集落の人口やゴミの排出量／種類を調べ、それをもとに分別ルールを作ることに挑戦しました。この活動の様子を見ていた、アルバリ地域を管轄する自治体もゴミの分別回収に関心を持ち、地域住民が利用できる資源回収場所の設置に取り組み始めました。

2018年度をもって、ムラのミライのネパールでの活動は終了しますが、プロジェクトに参加した地域住民が中心となって、自分たちでできることを一つずつ継続・普及していくことを期待しています。

### プロジェクトについて

どこで ネパール連邦民主共和国 ゴカルネシヨール市

だれと 上記に居住する住民

((公財)りそなアジア・オセアニア財団「環境プロジェクト助成」:  
ネパール・バグマティ川再生のはじめの一步、親子で学ぶ川の環境

活動パートナー SOMNEED Nepal ※ネパールのNGO

なにを 2012年から始まった、バグマティ川の浄化と環境教育で、地域のつながりを取り戻す活動。日々学校や家庭で排出されるゴミが川や土、空気に悪影響を与える仕組みを知ったうえで、ゴミにどう対処していくかを、地域住民が自分たちで考え実行することをサポートしています。

## 名護市 地域づくり

# コミュニティファシリテーターを 育てる研修

「自分がここで暮らすならば」—外部者としてコミュニティに関わるとき、当事者意識を持つことなしには、コミュニティの将来を決める局面にまともに関わるなどできない

### 2018年度の活動

2016年12月から約一年半にわたる、全4回の研修。

2018年7月に最終回となる第4回研修を開催しました。全4回の研修を通して与えられた課題は、「私が久志地区に住むとしたら、どんな生活を築いていくか」という地域計画づくり。地域の資源をもとにしたエネルギーや食糧の需給、その持続可能性について当事者意識をもって考えるために、新たに入植した開拓民のつもりで観察し、聞き取り、調べることが研修の中で課されました。研修参加者にとって、コミュニティとは何か、外部者としての関わりとは何かということをも再定義することを促す契機となることを試みた研修になりました。

### プロジェクトについて

どこで 沖縄県名護市久志地区

だれと 途上国や国内での地域づくりに関する活動を行っているNGO等の職員19人、研修実施地域の区長12人、名護市職員25人

(JICA「NGO等提案型プログラム」:コミュニティファシリテーターを育てる実践研修～メタファシリテーションを用いた、住民主体による地域づくり)

活動パートナー 名護市

なにを 沖縄県名護市との協働による研修プログラム。3泊4日×全4回シリーズの研修で、地域コミュニティによる課題分析→活動の形成・実施・・・というプロセスを実際に起こしていくことのできるファシリテーターを育成していきます。

## 人材育成

# メタファシリテーション手法の普及・人材育成

相手の本音を引き出し、対等な関係を結ぶメタファシリテーション手法。講座やコンサルテーションを通じた出会いが、ムラのミライの新たな活動の入り口に。

### メタファシリテーション講座・フィールド研修

メタファシリテーション講座を大幅にリニューアル。3ステップでじっくり学ぶ構成への変更＋講座受講後の実践につなげる教材の開発をおこないました。また、「地域おこし協力隊」、「子育て」や「SDGs」をテーマとした講座・研修も開催しました。

#### メタファシリテーション講座開催実績

##### ■メタファシリテーション体験セミナー

全国各地で計37回開催、参加者延べ313名

##### ■メタファシリテーション講座(旧メタファシリテーション基礎講座)

全国各地で計26回開催、参加者延べ232名

#### テーマ別講座開催実績

■「子どもに関わる人のための分かり合う対話術」参加者延べ38名

■「アイスクリームと猫と小さな政治 あなたの暮らしがSDGsを実現することになるための3つの法則」参加者延べ30名

#### フィールド研修開催実績

■「地域おこし協力隊が『地域の便利屋』にならないために 地域づくり・地域支援のためのコミュニケーション研修」(岐阜県郡上市)参加者13名

■ネパール・スタディツアー「ゴミから見る、ネパールの暮らしームラの今と昔を知るフィールドワーク」(ネパール・カトマンズ)参加者2名



### 書籍販売

ムラのミライの活動方法論であるメタファシリテーション(対話型ファシリテーション)の理論と実践例を書籍にまとめ、インターネットや講座等で販売。団体や方法論に関心を持っていただく最大の入り口となっています。

#### 書籍一覧

##### ■「途上国の人々との話し方」

和田信明・中田豊一(著) 2010年11月発行

国際協力・コミュニティ開発に携わる人の必読書として定着。日本語版は累計5,000部発行(4,019部販売)。

■「Reaching out to Field Reality」和田信明・中田豊一(著) 2015年2月発行

「途上国の人々との話し方」英訳版。

##### ■「南国港町おばちゃん信金」原康子(著) 2014年9月発行

マンガもついて、抜群に読みやすいプロジェクト具体例。

##### ■「対話型ファシリテーションの手ほどき」中田豊一(著)

2015年12月発行

身近な事例が満載の、手軽なブックレット。累計4,000部発行(3,438部販売)。

##### ■「ムラの未来・ヒトの未来」和田信明・中田豊一(著)

2016年11月発行

メタファシリテーションを通して見えてきた社会を丁寧に読み解いた最新刊。

## 講師・専門家派遣

2018年度も、海外・国内の現場にムラのミライスタッフや認定メタファシリテーション・トレーナーを派遣しました。メタファシリテーション講座の参加者が増えるにつれ、国際協力に限らず、国内の福祉や子育て・医療保健・自然環境といった切り口での講師派遣依頼が増えてきました。さらに、コミュニケーションスキルの向上に留まらず、活動そのものをメタファシリテーション手法で組み立てることをめざす、中長期的な視野に立った依頼をいただくようになってきました。特に日本での活動経験がまだ浅いムラのミライにとって、国内で起こっていることをつがさに知り、新たな活動の種を見出す貴重な機会となりました。

### 海外への講師・専門家派遣実績

NTCインターナショナル(株) / JICA農村開発部  
(公財)日本国際協力財団 / (公財)日本障害者リハビリテーション協会

### 国内への講師・専門家派遣実績

アステラス製薬(株)名古屋支店 / (独法)環境再生保全機構  
お茶の水女子大学 グローバル協力センター  
(特活)京都景観フォーラム / 京都大学大学院総合生存学館  
近未来くらし方検討会 / (社福)倉吉市社会福祉協議会  
甲南女子大学 / 神戸学院大学 / 神戸ソーシャルキャンパス  
子育て寺小屋ミチクサ塾 / 小泊漁業協同組合・下前漁業協同組合・中泊町  
(一社)コンサベーション・インターナショナル・ジャパン  
JICA九州 / JICA北海道 / たつの市新宮子育てつどいの広場  
名古屋市立大学 / (社福)日本国際社会事業団  
名古屋大学大学院国際開発研究科グローバルリーダーキャリアコース  
(公財)日本障害者リハビリテーション協会 / ハッピースタイルネット  
弘前大学医学部附属病院腫瘍センター  
北海道大学公共政策大学院 / 三重看護大学 / 立命館大学  
前橋市市民活動支援センター・群馬ファンドレイジング研究会  
(順不同)



## メディア掲載実績

- 月刊ウィラーン 男女共同参画のための情報誌((公財)日本女性学習財団)777号  
「このひと Special Interview 原康子さん 暮らしの中の積み重ねが平和につながる」(2018年8月1日)
- 岐阜新聞中濃地域版「どう暮らす? 視点大切 地域おこし協力隊 研修 郡上市」(2018年9月1日)
- 京都新聞市民版「言葉一つ一つに着目 信頼築く」(2018年9月16日)
- 岐阜新聞東濃地域版「会話術 相手尊重を」(2018年10月6日)
- 「栄冠めざしてスペシャル VOICE A LETTER from FUTURE」(河合塾)  
「七転び八起きの日から見出した『対話』と『協働』による課題解決の道」(2018年12月)
- 「地域連携 入退院と在宅支援」(日総研出版)  
「多職種連携、意思決定支援に役立つメタファシリテーションの実践」(2018年1・2月号～11・12月号まで6回連載)
- 青森朝日放送ABA「メッセージ」(2019年2月9日放送)  
「アグリヘルスアップに挑戦! ～農業・漁業の未来のために～」  
※出演＝平野貴大さん(ムラのミライ認定メタファシリテーション・トレーナー)





# 会計報告

## ■活動計算書

(2018年4月1日～2019年3月31日) (単位:円)

科目	金額
<b>I 経常収益</b>	
1. 受取会費	604,000
正会費	604,000
2. 受取寄付金	4,320,389
個人	2,904,389
企業・団体	1,416,000
3. 受取助成金等	5,080,000
受取民間助成金	5,080,000
受取国庫補助金	0
4. 事業収益	37,423,020
自主事業収益	18,178,726
JICA受託事業収益	19,244,294
政府・自治体受託事業収益	0
企業等受託事業収益	0
5. その他収益	6,186
受取利息	69
雑収益	6,117
<b>経常収益計</b>	<b>47,433,595</b>
<b>II 経常費用</b>	
1. 事業費	
(1)人件費	22,236,265
給与手当	19,693,216
法定福利費	2,483,990
福利厚生費	59,059
役員報酬	0
(2)その他経費	23,386,908
<b>事業費計</b>	<b>45,623,173</b>
2. 管理費	
(1)人件費	2,568,533
給与手当	2,274,784
法定福利費	286,928
福利厚生費	6,821
役員報酬	0
(2)その他経費	801,349
<b>管理費計</b>	<b>3,369,882</b>
<b>経常費用計</b>	<b>48,993,055</b>
当期正味財産増減額	△1,559,460
前期繰越正味財産額	3,322,678
次期繰越正味財産額	1,763,218

2018年度に実施を予定していたイラン事業が年度途中で中止となり、予算の大幅な変更を余儀なくされました。そのため、国内外での講師派遣やメタファシリテーション講座の実施で収入を確保しつつ、人件費等経費の一部切り下げの措置をとりました。加えて、会員やご支援者のみなさまによる活動・財政面でのご協力により、なんとか補正予算を達成することができました。2019年度も依然として厳しい財政状況が続いていますが、自主事業の拡大により、財政面での安定を図っていきたいと考えています。

## ■貸借対照表

(2019年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
(1) 現預金	12,134,395	
(2) 未収金	101,250	
(3) 棚卸資産	1,128,113	
(4) 仮払金	279,494	
<b>流動資産合計</b>		<b>13,643,252</b>
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
什器備品	0	
有形固定資産	0	
(2) その他資金		
保証金	334,000	
その他資金計	334,000	
<b>固定資産合計</b>		<b>334,000</b>
<b>資産合計</b>		<b>13,977,252</b>
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
(1) 未払金	6,536,357	
(2) 前受金	4,650,000	
(3) 未払消費税	482,400	
(4) 未払法人税等	70,900	
(5) 預り金	474,377	
<b>流動負債合計</b>		<b>12,214,034</b>
2. 固定負債		
(1) 有形固定負債	0	
(2) その他の負債	0	0
<b>負債合計</b>		<b>12,214,034</b>
<b>III 正味財産の部</b>		
前期繰越正味財産		3,322,678
当期正味財産増減		△1,559,460
<b>正味財産合計</b>		<b>1,763,218</b>
<b>負債及び正味財産合計</b>		<b>13,977,252</b>

### 監査報告書

2019年5月8日

特定非営利活動法人 ムラのミライ  
代表理事 中田豊一 殿

監事 岡本 廣弘  
監事 河合 将生

特定非営利活動法人促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人ムラのミライ 2018年度(2018年4月1日から2019年3月31日まで)における理事の業務執行状況および財産状況について監査した結果、適正かつ正確であることを認めます。

以上

# 組織運営

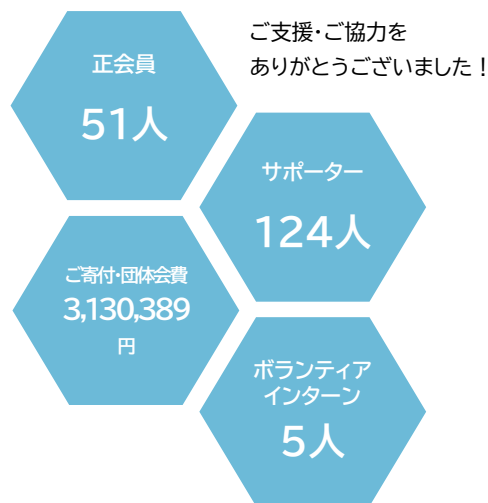
## 本部事務所の移転

2017年度に引き続き、これまで高山事務所で担ってきた総務・会計の業務を、海外事業や研修事業担当スタッフが常駐する関西事務所に統合し、より効率的な事務局運営を図りました。2018年度は、総務・会計業務も含めた本部機能を関西事務所に移し、高山事務所は、飛騨での地域づくり活動を模索していくための場所として位置付けました。

## 広報・ファンドレイジング・人材育成

一度に多くの人にメッセージを伝えて幅広く会員や支援者を募るのではなく、ムラのミライの活動方法論を実践するファシリテーターを一人ひとりじっくりと着実に育む中で、共に活動を担う会員や協働パートナーのネットワークを更に広げていくという方針のもと、広報やファンドレイジングに取り組みました。具体的には、ウェブサイト・SNSで発信する情報やニュースレター（2018年度は2回発行）の内容を、上記の方針のもとに検討・改訂していきました。

2018年度、  
ムラのミライを支えてくださったみなさま



## ムラのミライ役員・スタッフ(2018年度)

### ■理事・監事 (肩書は2019年3月のもの)

代表理事	中田豊一:参加型開発研究所 所長
副代表理事	山田貴敏:笠原木材株式会社 代表取締役社長
専務理事	宮下和佳:(特活)ムラのミライ 事務局
理事	小森忠良:元十六総合研究所 主席研究員
理事	和田美穂:社会福祉士
理事	久保田絢:愛知淑徳大学 ビジネス学部 講師
理事	山岡美翔:(特活)ムラのミライ 事務局
監事	河合将生:NPO組織基盤強化コンサルタント office musubime 代表
監事	岡本眞弘:税理士法人岡本会計事務所 代表税理士

### ■ムラのミライ認定メタファシリテーション・トレーナー

松浦史典、久保田絢、近藤美沙子、永田賢介、平野貴大

### ■職員

和田信明、原康子、宮下和佳、前川香子、山岡美翔、菊地綾乃(セネガル駐在)、田中十紀恵

